

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

大阪あそ歩

OSAKA ASOBO®

住吉・能ウォーク

~みをつくした恋の再会…「住吉詣」の光源氏と明石の上~

⑥ はったつまいり

毎月最初の辰の日は、商売発達を祈願して住吉大社の末社である種貸社、楠瑠社、浅沢社、大歳社の四社を巡るお参りでにぎわう。そして4年を一区切りとして、48回参拝すれば四十八辰、つまり始終発達するという掛け合いから満願成就となる。また楠瑠社で親しまれている羽織りを着た招き猫は、偶数月には右手を、奇数月は左手を挙げたものを毎月集め、48体そろって満願成就の証として大きな招福猫と交換して納める。

⑤ 大海神社

住吉大社の摂社の一つで祭神は豊玉彦命と豊玉姫命。海幸山幸の神話で知られる海宮の父神と娘神である。社前の井戸は玉の井と呼ばれ、彦火火出見尊(山幸彦)が海神より授かった潮満珠(しおみつたま)を沈めたところだと伝えられている。

④ 芭蕉句碑

松尾芭蕉が元禄7年(1694年)の9月12日夜、住吉大社の「宝の市」神事にお参りし、社頭で升を売る店を見て詠んだといわれる、「升買って 分別かわる 月見かな」の句が刻まれている。芭蕉はこの句を詠んだ翌月に、大阪で亡くなった。この句碑は、元治元年(1864年)秋、門流の浪速月花社中の人々が建てたもので、上部の丸い穴は、月をみだたものといわれている。

③ 高燈籠

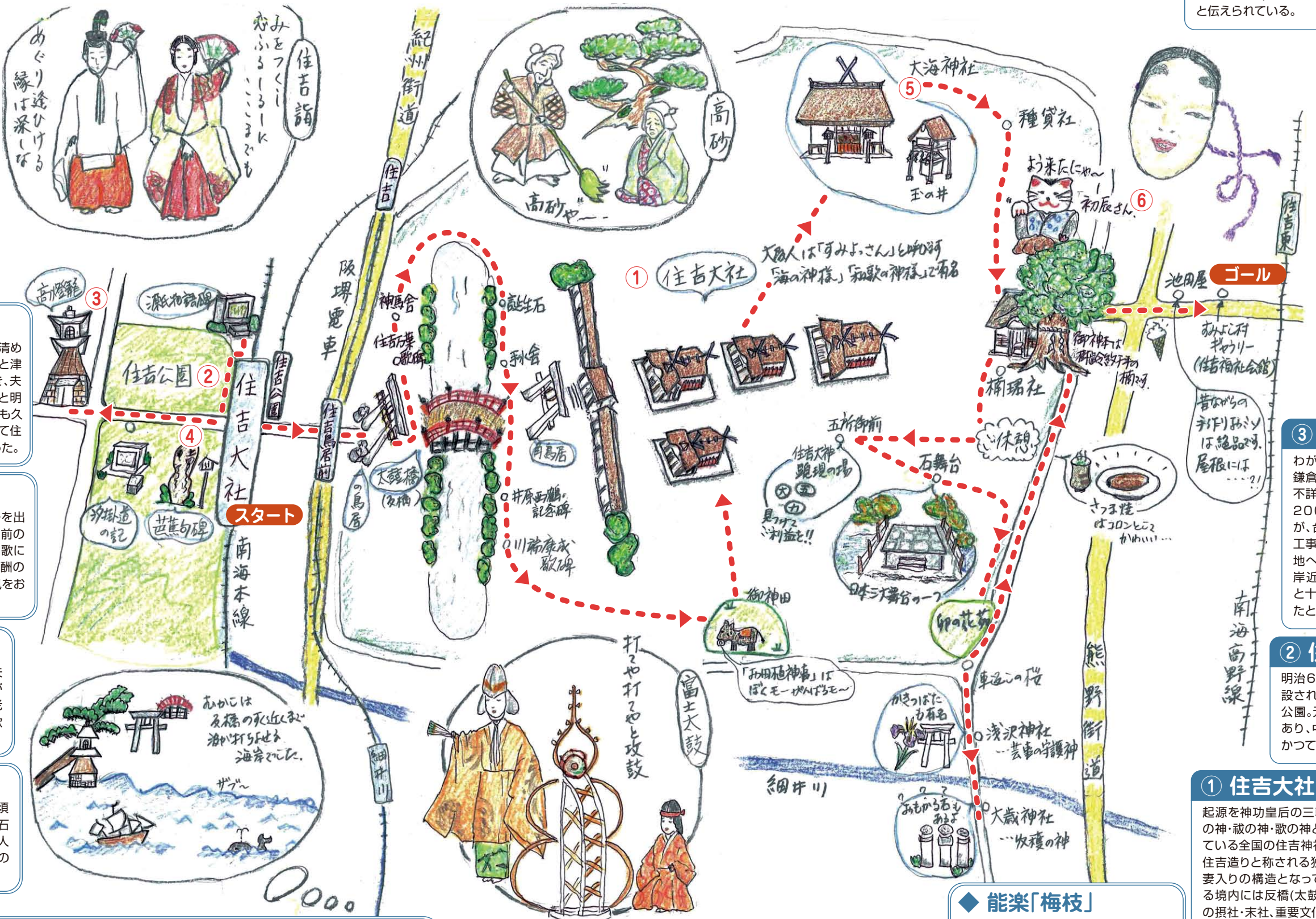
わが国最初の灯台として、鎌倉時代末の創建というが不詳。もとは、現地から西約200mのところにあったが、台風で倒壊したり道路工事で撤去されるなどで当地へ移築された。当時は海岸近くにあり、点灯すると十分灯台の役目を果たしたという。

② 住吉公園

明治6年に浜寺公園と共に開設された大阪でもっとも古い公園。元は住吉大社の馬場であり、中央部を通る潮瀬道はかつての参道であった。

① 住吉大社

起源を神功皇后の三韓遠征にまで遡る航海の神・祓の神・歌の神として古くから崇敬されている全国の住吉神社の総本社。本殿4棟は住吉造りと称される独特の檜皮葺・切妻造り妻入りの構造となっている(国宝)。3万坪ある境内には反橋(太鼓橋)を始めとして、多くの摂社・末社、重要文化財の石舞台や南門・東西薬所、600余基の石燈籠など、見所が豊富にある。おもな祭礼・神事としては、5月の卯の葉神事、6月14日の御田植神事、7月30日から8月1日までの住吉祭などが知られる。田植踊りや住吉踊りで有名な御田植神事は、重要無形文化財に指定されている。



◆ 能楽「高砂」

阿蘇宮の神主友成は旅の途中高砂の浦で、松の木陰を清める老夫婦に相生の松の謂れを尋ねた。老人は、播州高砂と津の国住吉の松は海を隔てながらも相生であると説き、夫婦相和と長寿を愛でた後、自分達こそ相生の松の精だと明かし姿を消すのだった。友成が住吉に着くと われ見ても久しくなりぬ住吉の岸の姫松夜夜ぬらん の歌に返して住吉明神が現れ、颯爽と舞を舞い千秋万歳を祝うのであった。

◆ 能楽「白楽天」

唐の白楽天は、日本の知力を試せとの勅命を受けて舟を出す。筑紫の海上で釣りをする老人に会った白楽天は、眼前の光景を詩に作ってみせる。すると老人は即座にそれを和歌に翻訳して返してきた。この老人は実は住吉明神。詩歌応酬の後、老体の神の姿を見せて舞うと、他の神々と共に神風をおこして白楽天を唐土に吹き戻した。

◆ 能楽「雨月」

西行法師が住吉に参詣し宿を求めると、その家の老夫婦は雨音と月光をめぐる風雅な争いをしている。老人が詠みかけた下の句に西行が即興で上の句をつけると老夫婦は喜び招き入れた。夜更けて住吉明神が現れ和歌礼讃の舞を舞い、舞歌一風の真諦を悟らせる。

◆ 能楽「住吉詣」

住吉社に詣でた光源氏一行が宴遊しているところへ、須磨で契った明石上が偶然住吉詣に訪れた。恥らう明石の上を上臈と見て光源氏が声をかけ、再会となる。二人は歌を取り交わし、酒宴の席で相舞を舞って想いをつらせるが、やがて心ならずも別れてゆくのだった。

◆ 能楽「岩船」

住吉の浦に童子が宝珠を持って現れ、自分こそは極楽の宝物を積む岩船を漕ぐ天ノ探女であると姿を消す。続いて龍神が岩船を守護するために出現し、住吉の岸に漕ぎ寄せ金銀宝珠の捧げ物をする。君を守り栄える御代を寿ぐ祝言能。

◆ 能楽「玉井」

彦火火出見尊(山幸彦)は魚にとられた兄の釣り針を求めて海中に入り、海神の都に行き着いた。尊は都の豊玉姫と玉依姫に案内され、姉たちの父母のもてなしをうけるうち、三年が過ぎてしまう。陸へ帰ろうとする尊の前に、潮満玉と潮干玉を捧げた二姫と、釣り針を探し出した龍王が現れ、舞いを舞うと尊を無事送り届けた

◆ 能楽「富士太鼓」

内裏の舞樂の太鼓の役者を浅間と富士という二人が争い、浅間に決まったが浅間は富士を恨んで殺害してしまった。帰らぬ夫を尋ねて来た富士の妻と子は、夫の死を知り嘆き悲しむ。狂気の妻は形見の装束をまとい、太鼓を夫の敵と思い定め、打ち続けるのだった。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。